

# 大規模盛土造成地等の耐震化に向けた対策【国土交通省】

## 施策概要

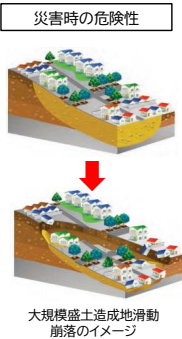
大規模盛土造成地及び液状化のおそれのある地域において、地盤調査等を実施し、安全性の確認・把握等を実施

## 効果

地震時に地すべりや崩壊のおそれのある大規模盛土造成地の安全確保対策の実施や、液状化被害のリスク周知及び各主体による液状化対策の実施に寄与

### 全国的な対策と効果

#### 対策1 大規模盛土造成地の安全性把握調査



**大規模盛土造成地の調査(第二次スクリーニング)**

安全性把握を行う優先順位を決める計画(第二次スクリーニング計画)の作成

①造成年代調査 ②現地踏査等

古い盛土ほど滑动崩壊が発生しやすい傾向や地盤・法面の変状、向があるため、まず、地下水の湧水の状況等を調査

③安全性把握

現地でボーリングによる地盤調査等を実施の上、地震時に盛土に滑りが発生する可能性を計算(安定計算)

大規模盛土が存在するすべての市区町村で完了

R7末 着手済: 98.8% (980市区町村)	R7末 着手済: 96.1% (953市区町村)
完了: 98.1% (973市区町村)	完了: 32.5% (322市区町村)

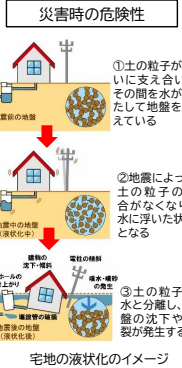
□:本施策における対策

対策(ハード事業)

滑动崩壊防止工事

地震時の盛土の地滑りの崩壊・変形を防止するため、地下水の排除、盛土の滑动抑止杭、擁壁の補強等の工事を実施。

#### 対策2 液状化ハザードマップの作成



**宅地の液状化被害リスクの周知**

液状化ハザードマップの作成

「リスクコミュニケーションを取るための液状化ハザードマップ作成の手引き」(R3.2公表)等により、液状化ハザードマップを活用した被害事前対策の取り組みを技術的に支援。

リスクコミュニケーション

液状化被害事前対策の検討ツールとしてハザードマップを活用。

(例)

- 地域や個別宅地の液状化被害リスクを確認し、個別の事前の備えを促す。
- 安全な避難路・緊急輸送道路等を確認する。また、事前対策を行うべき箇所の抽出や、対策優先度の検討を行う。
- 公共施設やライフライン施設に対する事前対策の是非の検討や、対策優先度の検討を行う。

液状化ハザードマップ(高度化版)の表現の一例

R7末 液状化ハザードマップの高度化を99市区町村で実施

対策(ハード事業)

- 個別宅地の事前対策 宅地所有者等による、個別宅地の地盤改良等の対策
- 公共施設の液状化防止工事
- 公共施設と宅地の一体的な液状化対策 特に必要な地区において、地下水低下工法等による公共施設と宅地との一体的な対策工事を実施

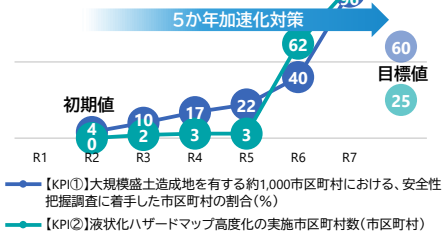
地下水低下工法

### 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
-	14億円	7億円
R6	R7	累計
3億円	6億円	30億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

### 目標達成の見通し



### 整備事例

# 地盤等の安全性を把握することで、地震等による宅地被害の軽減・防止に寄与する



栃木県宇都宮市

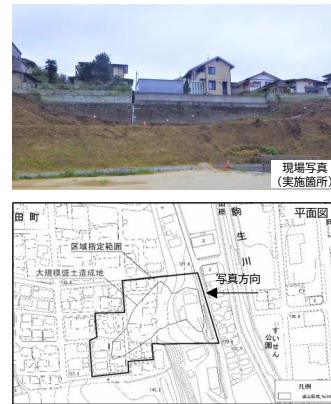


栃木県宇都宮市

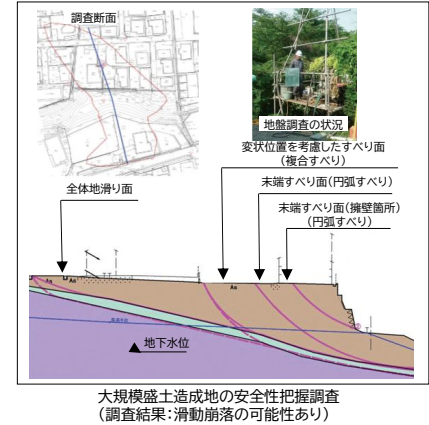


大規模盛土造成地の安全性把握調査等

### 大規模盛土造成地の全景



### 調査結果



### 事業費

0.19億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.19億円)

### 事業の背景(地域の課題)

現地踏査の結果、盛土等に変状が認められたことから、安全性把握調査を行い、滑动崩壊のおそれがあるか判断する必要がありました。

### 事業の内容

現地でボーリングによる地盤調査を実施の上、地震時における滑动崩壊の可能性の判定を行う等、安全性把握調査を実施しました。

### 見込まれる効果

地すべりや崩壊のおそれのある大規模盛土造成地について、地盤調査等による安全性の把握や確認を行い、安全性が不足されると判断されたことから、事前対策を行い、宅地被害の軽減・防止につなげた。

